

平成二十九年十二月六日 開会
平成二十九年十二月魚津市議会定例会提出議案

市長提案理由説明要旨

本日ここに、平成二十九年十二月魚津市議会定例会が開催されるにあたり、市政運営について所信の一端を申し述べますとともに、提案致しました案件について、その概要をご説明申し上げます。

まず始めに、

十月二十二日から二十三日にかけての台風二十一号につきましては、本市最接近の際に風速二十五メートルを記録するなど非常に大型の台風でありました。市内全域において被害が発生しており、二十三日の午前中には加積のリンゴ農園、魚津港や総合公園などの被害状況の確認を行いました。

収穫を間近に控えていたリンゴでは、三割から四割相当の落下があり、現段階での被害概算額は、一億三千万円を超えるものと見込んでおります。

また、魚津漁協施設であるお魚ランドでは、附属した荷捌き場の倒壊や海水汲み上げポンプの使用不能、さらには、経田漁港でもプレジャーボート用の浮棧橋が一部破損するなどの被害がありました。

また、魚津総合公園におきましても、ミラージュプールのフェンスが転倒し、園内に海水や土砂、漂流物が散乱するなど、これらの復旧や処理にも相当な費用を要するものと思われます。

その他にも、市道や用水等にあっても^{ほうど}崩土や^{まいそく}埋塞、^{いっすい}溢水による^{けいはん}畦畔の崩壊などの被害がありました。

これらに対しまして、二十五日には県土木部と農林水産部に出向き、被害状況の報告と今後の対策について協議し、すぐに対応できるものは県の応援を得て、今十二月補正予算案に計上しました。今後の詳しい調査で明らかになってくる被害も合わせまして適切な対策をとっていきたいと考えております。

次に、

十一月一日に発表致しました、「平成三十年度行政経営方針」について申し上げます。人口の状況につきましては、本年十月一日現在の人口が四万二千一百人となり、人口ビジョンの目標人口である四万二千六百十三人より約五百人少なく、人口ビジョンの想定を上回る減少スピードとなっています。

このような厳しい状況の中にあって、本市が将来にわたって市民が安心して

暮らせるまちであり続けるためには、行政だけの力で多くの課題に対応することは極めて困難であります。このため、昨年に引き続き、一つ目には市民との協働、二つ目には企業等との協働、そして三つ目には、市ゆかりの人材や他の自治体や団体などとの連携・強化、これらの三つの協働・連携のもと、各種施策や事業の企画・立案に臨むこととしております。

また、直面する人口減少と地域経済縮小の課題克服のため、昨年同様の、子育て支援、教育の充実、産業振興、観光振興、地域づくりと生活づくり、の五つの特定政策分野における取組みについて積極的に進めてまいります。

さらに、急速な人口減少の進展にしっかりと歯止めをかけ、高齢化が進む中にあっても市民の健康増進を図るため、「移住・定住の促進」と「健康づくりの推進」について、横断的な組織体制のもと、取組みを強化していくこととしております。

これらを実行していくための平成三十年度当初予算は、経常経費における一般財源を、昨年に引き続いて五パーセント削減としつつも、国県補助金や民間団体等の各種助成制度の活用に努め、特定政策分野や人口減少・高齢社会対策の強化にあっては、その実現に向け具体的な効果が見込まれる施策には要求額の上限を設けないこととするなど、より一層地方創生の推進に資する施策を充実させてまいりたいと考えております。

続きまして、最近の市政の取り組み状況について申し上げます。

去る九月二十四日に行いました「魚津市総合防災訓練」では、メイン会場の村木地区をはじめ、サテライト会場の市西部の各地区と道下地区でも独自の防災訓練が行われるなど、多くの市民・企業・団体が参加し、災害発生時における迅速かつ的確な防災活動の実施を図ることができました。

十月十四・十五日の両日にわたって開催致しました「みなとオアシス Sea 級グルメ全国大会」と「魚津産業フェア ○○魚津」におきましては、快晴の天候にも恵まれて、会場となりました海の駅蜃気楼やありそドームには市内外から多くの方にお越しいただきました。その中で、本市からエントリーした魚津バイ飯が、全国の名だたるグルメを抑えて、見事グランプリを獲得しました。これもひとえに、これまで開発や販売、宣伝に携わってこられた方々の努力の賜物であると思っております。これからも魚津を代表する食の一つとして、全国の皆さんに味わっていただけるよう、様々な機会を通して広くPRしていきたいと考えております。

十月二十二日に投開票がありました「衆議院議員総選挙」では、期日前投票も含めて多くの市民の方が投票されました。今回の最終投票率は五十．八九パーセントと、前回四年前の総選挙の四十四．六七パーセントに比べて投票率が六ポ

イント上昇しており、これは、市民の皆さまの政治参加意識の高まりによるものと思います。しかしながら、世代別の投票率を比べてみますと、六十代の六十六・三三パーセントに対して二十代が二十九・五三パーセントという結果に見られるとおり、まだまだ高い世代と低い世代との大きな差が見られます。今後の選挙においては、さらなる投票率の向上を目指して、どのような対策を講じることができるか、しっかり考えていきたいと思っております。

次に、特定政策の分野別に、進捗状況と今後の取組みについてご説明致します。

①まず、子育て支援について申し上げます。

産婦人科クリニック開設準備事業と致しましては、五月から七月までに基本構想策定委員会を開催し、委員の皆さんからいただいた意見をまとめ、基本構想を策定致しました。この基本構想では、基本理念を、「赤ちゃんとお母さん・家族に優しく、安全・安心な妊娠・出産・育児を応援します」としており、また、基本方針では、①安全・安心な医療の提供、②赤ちゃんとお母さんに優しい医療とケアの提供、③女性の健康、母子保健の向上に貢献、④周産期医療提供体制との連携、を掲げております。富山労災病院とともに同院内に分娩施設を整備し、安全に安心して出産ができる環境を作ってまいります。

また、隣接地に、近年、顕在化している産後うつなどに対応するため産前産後ケアや母子保健事業を行う施設を整備し、妊娠から出産、子育てまで切れ目のない支援を行ってまいります。両施設とも平成三十一年四月の開設を目指しております。

②次に、教育環境の充実について申し上げます。

平成三十一年四月の開校を予定しております「住吉・上中島・松倉統合小学校」につきましては、九月から校舎新築工事に着手しました。文部科学省のモデル事業としては全国初の木造三階建てで、県産材を使用した優しいぬくもりのある校舎は、平成三十年度中の完成を目指して、着実に工事を進めてまいります。

また、既存校や統合校における児童の「通学安全対策」につきましては、このほど「小中学校通学安全プラン」を策定し、通学路整備などハード事業だけでなく、官民連携したソフト対策も併せて取り組んでいくこととしております。通学区域の拡大に伴って変化する児童生徒の通学事情に対応し、協力企業との協働による見守り連携事業の実施やスクールバス導入による安全対策など、安全確保に関する取組みを推進してまいります。

③次に、産業振興について申し上げます。

新分野産業育成事業と致しましては、「つくるU O Z Uプロジェクト」と題しまして、先月十二日に「U O Z Uゲームフォーラム」を開催しました。当日は、ゲーム産業の人材育成を目的としたセミナーやゲーム開発講座などに県内外から定員を超える百二名の方々の参加をいただきました。今後は、実際にゲーム制作などを行う体験型の合宿、「U O Z Uゲームハッカソン」を本月二十三日から二十四日にかけて開催する予定としており、新たな産業を担う人材の育成につなげていきたいと考えております。

また、地元食材のブランド化とビジネスモデルの確立を目的とする地域商社の設立に向けて、「地域商社フォーラム」を本日開催します。地域が自らの資源を活用して経済の活性化を目指すもので、食や伝統工芸、工業製品等の「モノ」、観光などの「サービス」を地域外に売り込みます。マーケティングを進めながら、地域産品の商品開発に関する調査研究、設立に向けたサポート業務、広報活動等の基盤整備を行うこととしております。

「地域プラットフォーム形成支援事業」では、国土交通省の支援を受けて実施するものであり、公共施設再編方針で謳う民間活力の導入を推進し、PPP／PFI事業の促進・拡大を図ることを目的としております。本月十九日には、商工会議所ほかとの官民連携セミナーの開催を予定しており、地域プラットフォームを通じて産学官金の情報共有を図り、新たな案件の創出、地域の活性化につなげてまいりたいと考えております。

④次に、観光振興について申し上げます。

今年度は、春先から多くの大学生等と連携したまちづくりを進めております。夏の明治大学のインターンシップ、東洋大学による二十歳の挑戦事業に続き、九月には「魚津の食」磨き上げ支援プロジェクトとして、法政大学の学生が魚津で食に関する施設の見学や料理人などとの意見交換を行いました。この事業は、地方創生推進交付金を活用し、とやま観光推進機構とタイアップした新規事業であります。先月二十日には、中板橋商店街の「うおづや」で魚津の若手料理人による地元産食材を使った新メニュー試食会を開催したところであり、学生の意見を取り入れながら、全国展開に向けた方策の検討など魚津の食のブラッシュアップを進めていくこととしております。

その「うおづや」が先日開店一周年を迎え、鏡割り、振る舞い酒、魚津の特産品物販売等のイベントが盛大に行われました。首都圏における魚津の情報発信などを行うアンテナショップ的役割を担うこの「うおづや」が、益々盛況となりますよう願っているところであります。

⑤最後に、魅力的なまちづくりについて申し上げます。

「たてもんの森」プロジェクトにつきましては、十月二十八日に新川学びの森天神山交流館敷地内で植樹を行いました。今年度は、たてもんに使用される樹種のスギ、ヒノキ、ケヤキを二百四十本植樹致しました。次世代に伝統文化と自然環境を引き継ぐ市民意識の醸成を図ることを目的としており、市内小学生らとともに植樹できたことは大変意義のあることだったと思っております。今年を初年度として三年計画で七百二十本植樹し、環境整備を進めながら、多くの市民の憩いの場となるよう、たてもんの後継者育成とともに取り組んでいきたいと考えております。

来年一月には、東京ドームで行われる「ふるさと祭り東京二〇一八」にたてもんが参加します。魚津のタテモン行事を高岡の御車山行事、城端の曳山行事と連携してPRを行ってまいります。先の「みなとオアシスSea級グルメ全国大会」でグランプリを獲得しました魚津バイ飯も会場で販売する予定でありますので、関東近辺に在住の市ゆかりの皆さまにも来場を呼びかけながら、勇壮な曳き廻しのたてもんを食の魅力とともに全国へアピールしていきたいと考えております。

魚津駅・新魚津駅及び駅前広場整備事業と致しましては、七月に「魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり協議会」、十月には同専門部会を開催致しました。駅利用者へのアンケート調査の結果から、通勤通学に特化した生活駅としての利用実態が伺えることや上下移動の不便さを指摘する意見などが出されたことを踏まえて、交通結節機能としての駅の役割、周辺施設との調和・連携を求める協議会委員の意見とあわせて、魚津の将来像やまちづくりの方向性などについて協議していくこととしております。

ねんりんピック開催準備事業と致しましては、来年十一月に開催される本大会に向けて、十月二十二日に本市開催種目の卓球競技においてリハーサル大会を実施しました。本番さながらに、各種測定や健康チェックができる健康づくりコーナーや無料の豚汁をふるまう、おもてなしコーナーなども実施しました。全国から集う参加者を、市民を挙げて温かく歓迎し、心のこもったおもてなしの大会となるよう、万全の準備を進めていきたいと考えております。

特定政策分野以外にも、

八月から始まったタウンミーティングは、先月二十四日の天神地区での開催をもちまして、市内十三地区すべての開催が終了しました。多くの皆さんに参加していただき、誠にありがとうございました。私の方からは、本市の喫緊の課題である人口減少についての現状をご説明させていただき、人口減少を克服するためにいろいろな施策を紹介させていただきました。また、本市において低迷するがん検診の受診率の現状、医療費水準の高さなどをお示しし、食と運動による健

康づくりの大切さについてお話しさせていただきました。参加者の皆さんとの意見交換も活発にさせていただき、今後の施策や次年度予算へ反映できるものは早急に対応してまいりたいと考えております。

今後も、市政全般の各方面において、市民の皆さまや議員各位のご支援とご指導、ご協力をお願い申し上げます。

それでは、今定例会に提出致しました案件について、ご説明申し上げます。

議案第五十七号 一般会計補正予算におきましては、歳入歳出予算の総額に三億三千一百万円を追加し、歳入歳出予算の総額を、それぞれ一百九十一億八百万円と致したいのであります。

今回補正するものは、私立保育園・認定こども園運営支援事業や台風二十一号被害復旧対応、中小企業への設備投資助成金、人事院勧告に伴う人件費の補正など必要欠くことのできないものに限定し、計上致しました。

これらの財源として、地方交付税、国庫支出金、県支出金、繰入金及び市債等を充当致しております。

議案第五十八号から第六十三号まで、特別会計補正予算におきましては、下水道事業など六つの特別会計において、人事院勧告に伴う人件費の補正などそれぞれ所要の補正を行うものであります。

次に、予算以外の議案について申し上げます。

条例関係の議案と致しましては、**議案第六十四号から第七十一号**まで、魚津市職員の給与に関する条例や自治基本条例などについて、制定を一件、一部改正を七件提案致しております。

条例以外の議案と致しましては、**議案第七十二号及び第七十三号** 施設の指定管理者の指定について二件提案致しております。

以上、本日提出しました案件の説明と致します。

何卒、慎重ご審議のうえ、議決をいただきますようお願い申し上げます。